

Klark Yoshida の校長室だより
～2018(14)～栄えあれ永久に静岡英和女学院～

静岡英和女学院中学校・高等学校
校長 吉田 幸一

母の会が1955年(昭和30)に発足し、今年度で63年を迎えたこととなります。長きにわたる母の会の活動に関し、敬意と感謝を申し上げます。

私をご承知のように民間企業(ソニー本社)出身の校長として13年前に教育界に転身いたしました。祖父が東京都で校長をしていた関係もあり、幼少期から教育の大切さと教師の社会での役割りについて話しを聴く機会が多くありました。また人事での仕事の経験も活かせる校長職にはある種の祖父へのノスタルジアがあったのかもしれませんが。

校務運営や母の会の皆さんとのコミュニケーションにおいても、旧来のような学校色があまりなく、仮に年度内であっても必要なことは実施していくなど、必ずしも学校側の目線ばかりではない学校経営を感じ取っていただけていることと思います。今夏の熱中症対策として6月に保護者の方から提案のあった、日傘、帽子、アームカバーの使用を7月には使用を認める案内を発出いたしました。緊急性と健康管理を第一に短時間で教職員に結論を出してもらいました。

民間人校長として13年間続けていることがあります。もちろん静岡英和女学院においても年間40回程度開催している生徒との昼食会です。生徒たちの気持ちが心理的に一番リラックスしていて、日頃思っていることなど述べやすい状況にあるのが食事時間なのです。この時間のやり取りを学校経営に活かすことと生徒の学校理解と校長(教師)の生徒理解の両面に期待を掛けたわけです。13年間で、3,000人以上の生徒と直接対話したことになります。時として、担任の先生が入ることや保護者との昼食会も実施したことがあり、新鮮な提案や子ども達への思いやりプランが開花したこともありました。ある学校では、学校トイレの改修を保護者の方と教師と行い、手造りのパウダー・ルームに改修し、身だしなみを整え、落ち着いた学校となり、学力も一段と向上した学校もありました。全国から視察者が訪れ、トイレ改修が発端となって、学力向上に結びついたことに、生徒のみならず多くの先生が自信を持って授業に臨むようになったことが大きな成果となりました。

静岡英和女学院における英和学(英:英語のみならず第二外国語も学べる。和:和文化体験)や英和女性学(女性の社会貢献と男女共生社会を考える)も生徒と教師の自信につながることを期待しています。

伝統と歴史を誇る静岡英和女学院の未来像については、「静岡、日本のみならず世界で活躍できる女性人材を輩出する学校」を想起し、英和女学院の頭文字にふさわしい言葉を生徒に伝えています。

E: E l e g a n c e (洗練)

I : I n t e l l i g e n c e (知性)

W : W i s d o m (良識)

A : A b i l i t y (才能)

131年前に遡る1887年、カナダ人宣教師マーサ・ジャネット・カニングハム氏を初代校長にお迎えして静岡女学校が開校されました。キリスト教の信仰をもった人々によって、若き日本の女性に進歩した教育をあたえることを目的として創立された建学の精神に叶う学校経営に努めたいと考えています。

朝日にはゆる 富士のたかねは
われらが仰ぐ 理想の姿
はてしも知らぬ 東の海は
われらがうつす 心の鏡
はえあれとわに 静岡英和

母の会の益々のご活躍と静岡英和女学院の隆盛を祈念しています。



校長先生と昼食 弾む会話

静岡市東区の静岡英和女学院中・高は15日、「校長先生が訪しやす環境をつくってほしい」と田中一校長生徒の昼食会を開いた。交際を通じ相互理解を深め、校長先生を知る目的で、吉田校長が企画し、毎年実施している。

「文化祭」「部活動」…和やかに

田中校長は生徒を呼び、懇話会を開くことで学校経営にも生きる、生徒との距離を縮め、風通しの良い懇話会をつくってほしいと話した。

英和学(茶道)の授業



静岡新聞 2018年5月2日朝刊

英和学(茶道)の授業